

大会名称: 第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: City Arena Pilsen(チェコ・プルゼニ)

試合区分: No. 230 女子 決勝ラウンド・16ラウンド コミッショナー: Alison MUIR(ENG)

期 日: 2014(H26)年7月2日(水)

主審: Juan Jose FERNANDEZ(ARG)

開始時間: 15:45

副審: Hamid Mohamed Hussiin MOHAMED(LBA)

終了時間: 17:20

Markos Elias MICHAELIDES(SUI)

<b>日本</b> (通算3勝1敗)	○ <b>69</b>	14 -1st- 11 17 -2nd- 8 24 -3rd- 16 14 -4th- 9 -OT1- -OT2- -OT3-	● <b>44</b>	<b>中国</b> (通算1勝3敗)
-----------------------	----------------	---	----------------	-----------------------

第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会は第5日目。決勝ラウンド初戦、アジア1位の中国と準々決勝進出を賭けた一戦。立ち上がりこそ得点が入らず、重たいスタートとなるが、日本は序盤からメンバーチェンジを繰り返し、アグレッシブなディフェンスで相手を翻弄する。するとディフェンスから速攻で流れを掴み、31-19とリードして前半を終了。後半に入っても日本は足を止めることなく粘り強いディフェンスを見せると、相手に単発な攻撃しか与えず、リードを広げていく。69-44、日本は全員出場で快勝し、3大会連続でベスト8進出を果たした。

第1ピリオド、日本は#4加藤、#5水野、#6西岡、#8遠藤、#11中田でスタートする。立ち上がりこそ得点が入らず、5分経過して3-5と重たいゲームの入りとなる。しかし日本は、アグレッシブなディフェンスから#4加藤、#6西岡のゴール下、#8遠藤の3Pシュートで流れを掴むと、途中交代の#13赤木が果敢なドライブからシュートを沈め、リードを奪う。一方の中国は、高さを生かした攻撃に加え、#5WANG、#7ZHANGの3Pシュートで応戦する。14-11、日本が苦しみながらも3点リードで終了。

第2ピリオド、日本は#4加藤、#6西岡、#11中田、#13赤木、#14赤穂でゲームに入ると、中国の高さに対してチームディフェンスを徹底し、相手を苦しめる。オフェンスでは#11中田がハイポストからのドライブ、ジャンプシュートで得点すると、#6西岡のゴール下、#4加藤のドライブでリードを伸ばす。残り4分51秒、25-16となったところで中国は2回目のタイムアウト。その後、#5WANGの3Pシュート、#12HAのポストプレイで反撃を許すが、日本も#11中田のシュート、#4加藤の動きの中からのドライブインで流れを渡さない。31-19、日本が12点差をつけて前半終了。

第3ピリオド、日本はスタートの5人に戻して後半に入ると、中国は2-1-2のゾーンディフェンスで反撃に出る。するとそこから#7ZHANGに3Pシュート、#11WANGにジャンプシュートを許し、日本は我慢の時間帯となる。しかし粘り強いディフェンスをし続け、#5水野、#4加藤の連続3Pシュートで息を吹き返し、主導権を譲らない。残り2分を切り、じわじわと点差を広げる日本は、#5水野の3Pシュート、#8遠藤の速攻からのミドルショット、#11中田のドライブで一気に自分たちのペースに持ち込む。55-35、日本がリードを広げて終了。

第4ピリオド、日本はスタートの5人でスタートを切る。一方の中国は、追い上げるべく意地を見せ、積極的に#5WANG、#7ZHANG、#9ZOUが3Pシュートを打つが決まらず、単発なプレイが続く。試合を優位に進める日本は、#4加藤、#10脇が走って速攻で得点すると、#14赤穂のドライブ、3Pシュートで連続得点を挙げる。最後には、途中交代の#7木村がダメ押しのジャンプシュートを沈め、試合終了。69-44、日本は全員出場で快勝し、昨年のFIBA ASIA U-16選手権大会のリベンジを果たした。

この結果により、日本は3大会連続でベスト8進出を決めました。

次戦、1日休息日を挟み、7月4日(金) 13:00(現地時間)より、ベスト4進出を賭けた決勝ラウンド準々決勝を、ここまで全勝中のハンガリー(A1位/通算4勝0敗)と対戦する。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会

FIBA(国際バスケットボール連盟)